

入 札 説 明 書

市が行う建設工事の工事希望型指名競争入札を下記のとおり行いますから、希望があれば米子市建設工事執行規則（平成17年米子市規則第106号）及び米子市会計規則（平成17年米子市規則第44号）を承知のうえ参加してください。

記

工事希望型指名競争入札に付する工事	工 事 名	車尾皆生幹線ほかマンホール蓋改築工事		
	工 事 場 所	米子市皆生三丁目地内ほか		工期 契 約 日 から 令和7年12月12日まで
契 約 条 項 を 示 す 場 所		米子市総務部契約検査課		
担 当 課		下水道整備課		
入札保証金に関する事項		入札保証金	免除	
現 場 説 明 会		なし		
開 札 の 日 時 及 び 場 所		日時 場所	令和7年7月1日 午前9時40分 本庁舎202会議室 開札	
契 約 保 証 に 関 す る 事 項	請負代金の額が130万円を超える工事については、契約の締結と同時に請負代金額の10分の1以上の額を保証する次の各号の一に掲げる保証を付さなければならない。			
	(1) 契約保証金の納付			
	(2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供			
	(3) 銀行若しくは市長が確実と認める金融機関又は保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。以下同じ。）の保証			
	(4) 公共工事履行保証証券による保証			
前 払 金 部 分 払	有	40%以内 ※ただし、請負代金の額が130万円を超える場合に限る		
	有	回数は、米子市建設工事執行規則による ※部分払いに替えて中間前払の選択も可		
入札に関する 注 意 事 項	1. 開札前天災地変等のやむを得ない事由が生じたとき、又は競争の意思がないと認められるときは、入札の執行を中止し、又は取り止めることがある。			
	2. 入札参加者が1者であっても、入札を執行するものとする。			
	3. 入札に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び米子市郵便入札実施要領第4条に定める入札は、無効とする。			
	4. 入札者は、到達した入札書は、書換え、引換え又は撤回することができない。			
	5. 入札者は、入札書到達後においても入札執行の完了までは入札の参加を辞退することができる。			
	6. 落札となるべき価格と同一価格の入札をしたものが2人以上あるときは、当該入札者にくじを引かせて、落札者を決定するものとする。この場合において、くじを引くべき入札者が、当該入札の立会者として参加している場合はその者が、参加していない場合は入札事務に関与しない職員に当該入札者に代わってくじを引かせるものとする。			
	7. 本件工事は、米子市建設工事最低制限価格設定要領に定める方法により、予定価格の2/3（ただし、8/10を下回る場合は、8/10とする。）以上で最低制限価格を設定しており、最低制限価格を下回る価格で入札があった場合は、当該入札者を失格とし、予定価格の範囲内の価格で入札した他の者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とする。			
	8. 入札書に工事費内訳書が同封されていない場合は、無効とする			
	9. 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に10%に相当する額を加算した金額をもって落札価格（円未満切捨て（単価契約を除く。））とするので、入札者は、消費税に係る課税業者であるか免税業者であるかを問わず、見積った契約希望価格の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。			
	10. 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。			
	11. 入札回数は、1回とする。			
そ の 他 の 注 意 事 項	1. 米子市工事希望型指名競争入札実施要領に定める経営内容等が不健全な申込者及び工事成績が不良な申込者は、不指名とすることがある。また、同一入札における資本的、人的関係にある複数の申込者のうち1者のみを指名し、他の者を不指名とすることがある。			
	2. 申込時に届けのあった配置予定技術者の変更は、入札書差出期限まで変更可能とし、その後の変更は原則として認めないものとする。			
	3. 同一の主任技術者は、米子市が発注した工事（通常型指名競争入札及び随意契約によるものを除く。）に3件を超えて従事することはできないものとする。			
	4. 別に定める「建設工事に係る配置予定技術者の取扱いについて」における重複申込者に該当する者は、配置予定技術者重複届出書を所定の方法により提出すること。なお、入札結果により配置予定技術者がいなくなった場合は、失格とする。			
	5. 工事現場に配置する技術者等（主任技術者、監理技術者及び現場代理人をいう。）は、当該建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係（第三者の介入する余地のない雇用に関する一定の権利義務関係が存在することをいう。）が申込日までに3ヶ月以上ある者に限るものとする。			
施工に関する 注 意 事 項	1. 工事設計図書 別紙のとおり			
	2. 本工事の施工にあたっては、鳥取県制定「土木工事共通仕様書」、「土木工事施工管理基準」、「公共建築工事標準仕様書」又はその他別に定める仕様書等に基づき実施しなければならない。			
	3. この契約に係る工事の施工にあたっては、ダンプカー協会加入車を優先的に使用するように努めること。			
	4. 工事着手前に自治会長及び地元関係者に連絡すること。			
米子市建設工事執行規則第14条により公にする予定価格 ¥6,782,600				
最低制限価格 (直接工事費＋共通仮設費＋現場管理費の9/10＋一般管理費5.5/10) ×1.1				

工 事 設 計 書

令和7年度 下水道事業会計	上下水道局 下水道整備課	課長	担当 課長 補佐	合議	審査	設計
------------------	-----------------	----	----------------	----	----	----

工 事 件 名	車尾皆生幹線ほかマンホール蓋改築工事	工期	令和7年12月12日まで
施 工 場 所	米子市 皆生三丁目地内 ほか		

設 計 金 額 ￥ 円也

費 目	円	(内訳)	年度	年度	備 考
本工事費					
計					

説 明	築 造 内 容
本工事は、米子市皆生三丁目地内ほかの車尾皆生幹線	・マンホール蓋取替工 12箇所
ほかの老朽化に伴いマンホール蓋の取替えを実施するも	
のである。	

米 子 市 上 下 水 道 局

マンホール蓋改築工事 特記仕様書

1. 適用範囲

この仕様書は本市が行うマンホール蓋改築工事の施工に適用し、施工方法を以下に規定する。

なお、次項の(1)舗装切断、(5)無収縮流動性モルタル及び(6)舗装復旧については、円形カッター工法の施工のみ適用する。

2. 施工方法

(1) 舗装切断

舗装切断は、円形かつ球面状に切断できるカッターを用いて切断する。

採用する工法は、施工計画書に明記し、承認を受けなければならない。

(2) 枠とマンホール上部壁とのボルト緊結

枠とマンホール上部壁とのボルト緊結は、既設の上部壁にインサートナットがない・破損している場合等には、あと施工アンカーを設置する。あと施工アンカーは、マンホール内部からの圧力等でマンホール蓋が受枠ごと浮上することが無いように、引抜強度は3本で106kN以上とする。なお、打撃式アンカーは衝撃による斜壁の破損を防止するため不可とする。使用するあと施工アンカーについては、引抜強度試験結果を提出しなければならない。

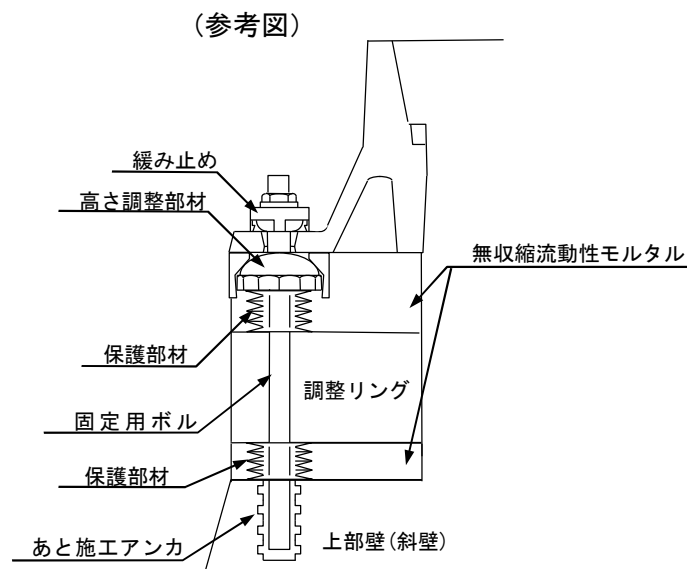
あと施工アンカー(JIS A 5506:2018付属書B参照)

項目	規格値
引抜強度 (3本)	106kN 以上

ボルト強度 M16 強度区分4.6 保証荷重(35.3kN/本)より

(3) 調整リング

既設の調整リングを撤去して、新たに調整リングを設置する場合は、蓋のがたつき、マンホール内への浸入水防止、また、集中豪雨時のマンホール内の内圧が、そこから漏れ出る事で発生する周辺舗装の損傷を防止するため、上部壁と調整リング間の隙間を無収縮流動性モルタル等にて完全充填しなければならない。



(4) 高さ調整部材「JSWAS G-4 2009 参考資料 2」

高さ調整部材は、以下の性能を有している部材を使用しなければならない。

- ・ 枠と周辺舗装との高さ調整を容易且つ正確に作業ができる。
- ・ 枠固定のためにナットを締め付けた際に、枠の変形を防止できる。
- ・ アンカーボルト、高さ調整部材を再利用するための保護部材を使用する。

(5) 無収縮流動性モルタル「JSWAS G-4 2009 参考資料 2」

無収縮流動性モルタルは、1.5時間程度（攪拌から交通開放までの時間）で圧縮強度が9.8N/mm²以上になることが証明されている材料を使用しなければならない。品質管理については、材料袋に記載されているロット番号等と同一番号の試験成績表にて、下表の圧縮強度が確認できる場合、テストピースでの圧縮強度試験を省略する。これ以外の場合、公的機関にて圧縮強度試験を行い、成績書を提出しなければならない。

無収縮流動性モルタル

項目	規格値
圧縮強度 (N/mm ²)	9.8 N/mm ² 以上
圧縮・膨張性	収縮しないこと

※圧縮強度 温度20℃、養生時間1.5時間での値

(6) 舗装復旧

マンホール蓋取替えのために切断・撤去した舗装の復旧には、道路条件に適合する舗装材と使用し、施工計画書に明記し承認を受けなければならない。舗装材については、施工後早期に道路開放が可能なものを選定する。

表層部

使用舗装材	施工厚さ(路面からの高さ)
常温アスファルト合材	道路条件の指定高さに準拠
薄層・樹脂系舗装材	各舗装材の指定高さに準拠

路盤材について

- ・ 常温アスファルト合材の場合は、締固めの良い材料を使用し、十分な転圧を行わなければならない。
- ・ 薄層・樹脂系舗装材の場合は、施工性・無収縮性・高流動性・超早強性・耐久性に優れ、材料強度の高い無収縮モルタル及びこれと同等以上の材料を使用しなければならない。
(無収縮モルタルは、(5)の性能を有したものとする)

特記仕様書((車道用)次世代型マンホールふた)

1. この特記仕様書は、本市が使用する下水道用鋳鉄製マンホールふた 呼び 600(以下「マンホールふた」と言う。)のうち本市が指定する箇所に適用し、その荷重仕様は日本下水道協会規格(JSWAS)G-4 の T-25 とする。

2. 性能項目

(車道用)次世代型マンホールふたについては、(財)下水道新技術推進機構(現：公益財団法人 日本下水道新技術機構)発行『次世代型マンホールふたおよび上部壁技術マニュアル』(2007 年 3 月発行)(以下「技術マニュアル」と言う。)に準拠した性能とする。

3. 性能確認方法

(車道用)次世代型マンホールふたの材料承認については、事前にマンホールふたの性能が技術マニュアルに準拠していることを証明する試験成績書等の資料を添付した承認申請を、本市担当者に提出し承認を得ること。

また、試験成績書を発行する性能検査場所は、検査が确实・公平に透明性を持って実施できる、公設試験所もしくは第三者性を証明できる試験場(ISO/IEC17025 取得等)で実施することとする。ただし、本市が試験所として製造業者を認めた場合はこの限りではない。

なお、検査に供する製品及び検査費用は、製造業者負担とする。

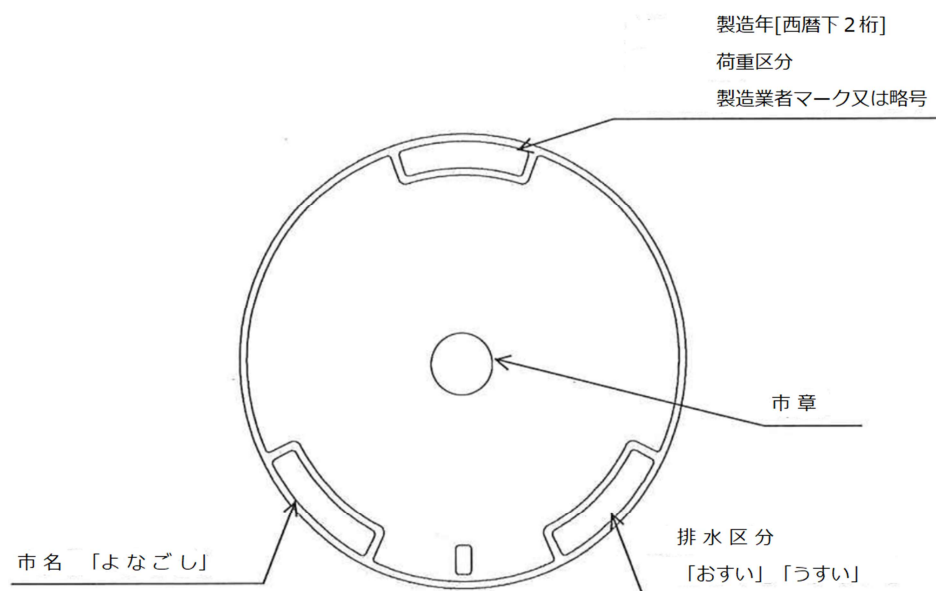
4. 性能確認項目

性能	試験項目	摘要
耐スリップ	滑り抵抗試験(初期性能,限界性能)	
がたつき防止	交互荷重試験(初期性能)	
	輪荷重走行試験(限界性能)	
耐荷重(破損)	荷重たわみ試験	G-4
	耐荷重試験	G-4
	発生応力度試験(初期性能,限界性能)	
	材質試験(Yブロック,実体切り出し)	G-4(Yブロック)
耐腐食	腐食試験((Yブロック,実体切り出し)	
浮上・飛散防止	圧力解放性能試験(機械的,水理的)	G-4[参考]
	圧力解放時の部品強度確認試験(錠・蝶番および浮上ロック)	G-4
	ふた浮上性能試験(浮上しろ,車両通行,浮上後ふた段差)	G-4
転落・落下防止	転落防止装置耐揚圧荷重強さ試験	G-4[付属書]

	転落防止装置荷重強さ試験	G-4[付属書]
不法開放防止	不法開放防止性能試験	G-4
	施錠強度確認試験	
施工性	傾斜施工試験	
	枠変形防止性確認試験	
維持管理作業性	維持管理作業性確認試験	
寸法,外観および形状	寸法検査	G-4
	外観および形状検査	G-4

5. 標示

○(車道用)次世代型マンホールふた表面鋳出し



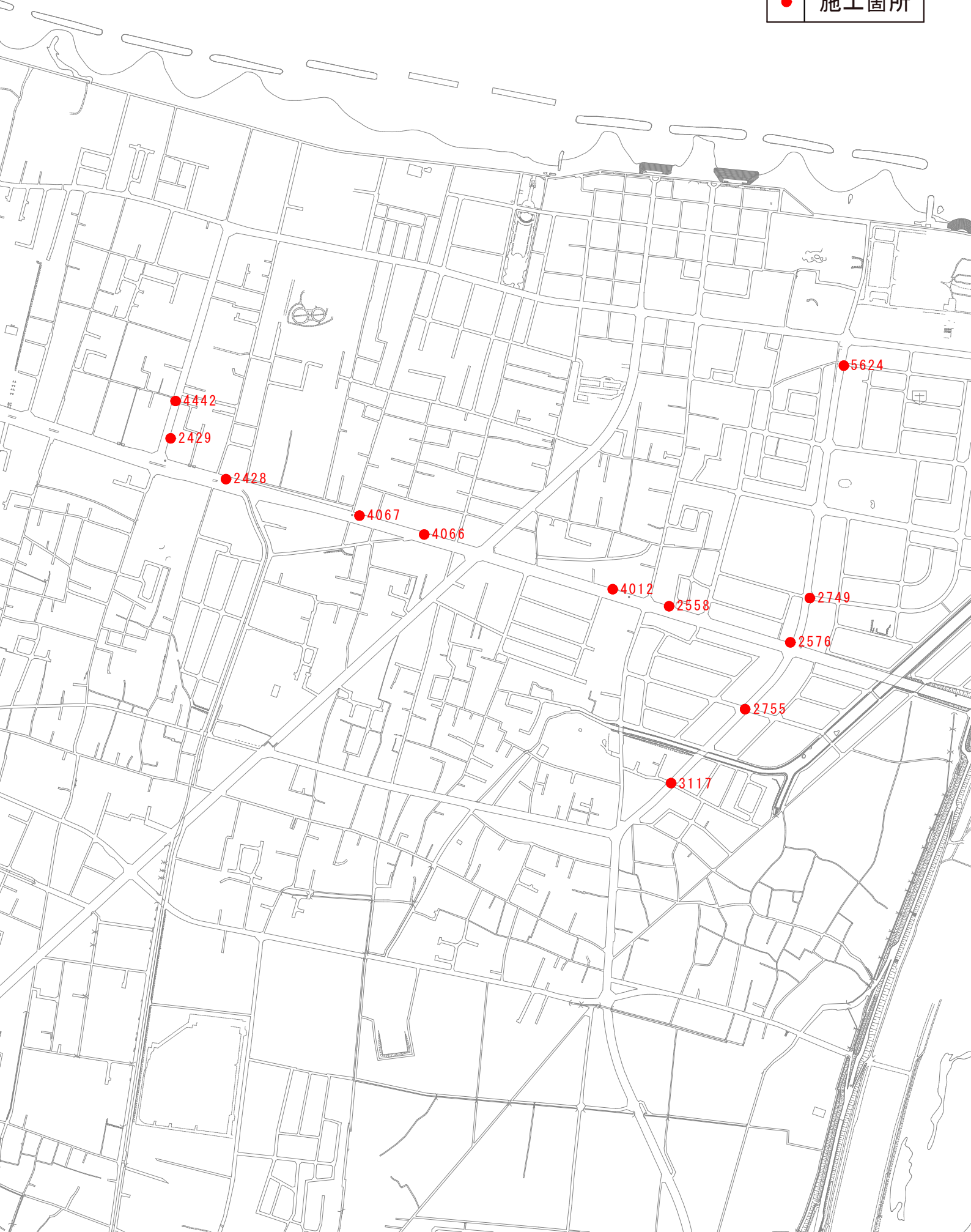
6. 疑義

以上の事項に該当しない疑義については協議の上決定するものとする。

位置図

車尾皆生幹線ほかマンホール蓋改築工事

● 施工箇所



設計数量総括表

[illegible]

1 仕様書

この契約において仕様書とは、特に定めのない限り「鳥取県土木工事共通仕様書」をいう。

2 下請関係の合理化について

- (1) この契約に係る工事の的確な施工を確保するため、下請契約を締結しようとする場合は、「建設産業における生産システム合理化指針」及び「鳥取県建設工事における下請契約等適正化指針」の趣旨に則り、優良な専門工事業者の選定、合理的な下請契約の締結、代金支払等の適正な履行、適正な施工体制の確立、下請における雇用管理等の指導等を行い本指針の遵守に努めること。
- (2) 中小建設業者に対する取引条件の適正化及び資金繰りの安定化等に資するため、元請業者は下請業者に対して、発注者から受取った前払金の下請業者への支払い、下請代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等、下請代金支払の適正化について配慮すること。
- (3) 受注者は、下請契約を締結した場合は、施工体制台帳及び施工体系図を発注者に速やかに提出しなければならない。また、当該施工体制台帳及び施工体系図下に変更があったときは、変更が生じた日から20日以内（完成時においては、完成通知書の提出時）に変更後の書類を提出しなければならない。
- (4) 工事の一部を第三者に請け負わせる場合、又は工事に伴う交通誘導等の業務を第三者に委託する場合には、市内及び県内業者（以下「市内業者等」という。）との契約に努めること（優先順位は市内、県内の順位とする）。ただし、技術的に施工又は対応できる市内業者等がない工事等を請け負わせ又は業務を委託する場合、あるいは市内業者等で施工できても工程的に間に合わない等、特段の理由がある場合は、この限りでない。

3 建設資材等について

- (1) 工事に使用する資材については適法に生産されたものとする。
- (2) この契約に係る建設資材納入業者との契約に当たっては、当該業者の利益を不当に害しないよう公正な取引を確保するよう努めること。
- (3) 工事に使用する資材については、「県土整備部リサイクル製品使用基準」に基づき、リサイクル製品を積極的に活用すること。
- (4) リサイクル製品以外の工事に要する資材の使用順位は、次のとおりとする。
 - ① 市内産の資材がある場合は、市内産の資材の使用に努めること。ない場合は、県内産について同様の取り扱いとする。
 - ② 県外産の資材を使用する場合は、市内に本社又は営業所、支店等を有する販売業者（以下「市内販売業者」という。）から購入した資材の使用に努めること。市内販売業者がないときは、県内販売業者について同様の取り扱いとする。ただし、当該資材について市内販売業者又は県内販売業者がない場合は、この限りでない。

4 工事の安全確保について

この契約に係る工事の施工に当たっては、労働安全衛生法、労働安全衛生規則等を遵守し、労働災害の防止に努め、また工事中の交通事故防止について、特に留意すること。

5 建設機械の使用について

- (1) 標準操作方式建設機械を使用するよう努めること。
- (2) 施工現場及びその周辺の環境改善を図るため、低騒音型・低振動型の建設機械を使用するよう努めること。
- (3) 排ガス対策型建設機械の使用については、排ガス対策型建設機械の使用基準について（平成17年11月15日付第200500080172号県土整備部長通知）によること。

6 団体加入車の使用促進について

「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体の設立状況を踏まえ、同団体への加入車の使用を促進するよう努めること。

7 ダンプトラック等による運搬について

- (1) 積載重量制限を超えて工事用資機材等を積み込まず、また積み込ませないようにすること。
- (2) さし柵装着車、不表示車等による違法運行は行わず、また行わせないようにすること。
- (3) 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から工事用資機材等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。
- (4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし柵装着車、不表示車等による違法運行を行っている場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- (5) 建設副産物の処理及び工事用資機材等の搬入・搬出等に当たって、下請事業者及び工事用資機材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- (6) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。
- (7) 産業廃棄物の運搬車については、車体の外側に、環境省令で定めるところにより、産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する運搬車である旨その他の事項を見やすいように表示し、かつ、当該運搬車に環境省令で定める書面を備え付けること。また、産業廃棄物処理業者に委託して産業廃棄物を運搬する場合、この表示、備え付けを行わせること。
- (8) 以上のことにつき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

8 不正軽油使用の禁止について

工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む）並びに建設機械等の燃料として、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等を使用しないこと。

9 建設業退職金共済制度への加入等

- (1) 建設業者は、建設業退職金共済制度（以下「建退共」という。）に加入すると共に、その建退共の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。ただし、下請けを含むすべての労働者が、中小企業退職金共済制度、清酒製造業退職金共済制度、林業退職金制度のいずれかに既に加入済みで、建退共に加入することができないと認められる場合は、この限りでない。
- (2) 建設業者が下請契約を締結する際は、下請業者に対してこの制度の趣旨を説明し、原則として証紙を下請の延労働者数に応じて現物交付することにより、下請業者の建退共加入及び証紙の貼付を促進すること。なお、現物を交付することができない場合は、掛金相当額を下請代金中に算入することとし、契約書等に明記すること。
- (3) 受注者は、工事現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。

10 建設業法の遵守について

- (1) 建設業法（昭和 24 年法律第 100 号）に違反する一括下請その他不適切な形態の下請契約を締結しないこと。
- (2) 建設業法第 26 条の規定により、受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者または、専任の監理技術者については、適切な資格、技術力を有する者（工事現場に常駐して専らその職務に従事するもので、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者に限る。）を配置すること。
- (3) 受注者が工事現場ごとに置かなければならない専任の監理技術者は、1 級施工管理技士等の国家資格者等で監理技術者資格者証の交付を受けている者を配置すること。この場合において、発注者から請求があったときは監理技術者資格者証を提示すること。
- (4) 建設業法第 40 条の規定により、受注者は建設現場ごとに「建設業の許可票」を掲示すること。
- (5) 上記のほか、建設業法等に抵触する行為は行わないこと。

11 労働基準法の遵守

この契約に係る工事の施工に当っては、労働基準法等の趣旨に則り法定労働時間週 40 時間を遵守すること。

12 建設業からの暴力団排除の徹底について

- (1) 工事の施工に際し、暴力団等の構成員又はこれに準ずる者から不当な要求や妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、監督員に速やかにその旨を報告するとともに、警察に届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
- (2) この場合において、工程等を変更せざるを得なくなったときは、速やかに監督員に協議すること。

13 現場代理人、追加技術者、主任技術者及び監理技術者の雇用関係について

- (1) 工事現場に配置する技術者等（技術者等とは、現場代理人、追加技術者、主任技術者、監理技術者及び技能士をいう。）は、所属建設業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものでなければならない。
- (2) 直接的雇用とは、技術者等とその所属建設業者との間に第三者の介入する余地のない雇用に関する一定の権利義務関係（賃金、労働時間、雇用及び権利構成）が存在することをいい、恒常的な雇用関係とは一定の期間（3 か月以上）にわたり当該建設業者に勤務し、日々一定時間以上職務に従事することが担保されていることに加え、技術者等と所属建設業者が双方の持つ技術力を熟知し、建設業者が責任を持って技術者等を工事現場に配置できるとともに技術者等が建設業者が有する技術力を、十分かつ円滑に活用して工事の監理等の業務を行うことができることをいう。

14 労働者の福祉向上について

- (1) 建設労働者の適切な賃金水準の確保、社会保険等（雇用保険、健康保険及び厚生年金保険）への加入など、労働者の福祉向上に努めること。なお、健康保険等の適用を受けない建設労働者に対しても、国民健康保険等に参加するよう指導に努めること。
- (2) 下請契約の締結に際しては、下請業者へ法定福利費を内訳明示した見積書（標準見積書という。）の提示を求め、提示された場合にはこれを尊重するとともに、社会保険等の法定福利費などの必要経費を適切に考慮するように努めること。

15 産業廃棄物の処理に係る税について

この契約に係る工事で発生する建設廃棄物のうち、鳥取県、岡山県、広島県等の産業廃棄物の処理に係る税条例を施行している自治体内に搬入する建設廃棄物については、産業廃棄物の処理に係る税が課税される場合があるので適切に処理すること。

16 コンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比

コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては 5 5 パーセント以下、無筋コンクリートについては 6 0 パーセント以下とする。

17 消費税及び地方消費税の適正転嫁等について

下請契約及び資材購入等において、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法（平成 25 年法律第 41 号）で禁止された転嫁拒否等行為を行わないなど、適切な対応を行うこと。

18 その他

- (1) 工事施工管理資料等については簡略化名称を使用できることとする。ただし、略称については、発注者と協議の上重複しないよう注意し、また、わかりやすく簡単なものとする。
- (2) コンクリート構造物については、「コンクリート構造物ひびわれ抑制対策指針」に基づき施工するものとする。
- (3) 建設副産物のリサイクル、熱帯木材型枠の削減等、環境対策について積極的に取り組むこと。
- (4) 労務費については、法定労働時間週 40 時間を考慮したものとしている。
- (5) 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）においても同様の義務を負う旨を定めなければならない。

(6) 舗装単独工事（アスファルト）においては、表層工、基層工及び上層路盤工を自社施工しなければならない。ただし、表層工、基層工及び上層路盤工であっても特殊工法部分についてはこの限りでない。

(7) 契約書第 25 条第 5 項の対応については、国土交通省「工事請負契約書第 26 条第 5 項（単品スライド条項）運用マニュアル（案）」に基づき請求を行うこと。なお当マニュアル中「工事請負契約書第 26 条」とあるのは「米子市建設工事請負契約書第 25 条」と読み替えるものとする。

契約書第 25 条第 6 項の対応については、国土交通省「賃金等の変動に対する工事請負契約書第 25 条第 6 項（インフレスライド条項）運用マニュアル（暫定版）」に基づき請求を行うこと。

現 場 説 明 書		令和7年6月10日改正 特記事項 1
仕様書	本工事の施工に当たっては、契約日現在の次に掲げる仕様書等によること。 ・ <u>鳥取県土木工事共通仕様書</u> ・ <u>鳥取県土木工事施工管理基準</u> ・ <u>下水道工事標準仕様書</u>	
工程	① （他工事等との調整） ② （部分完成、着工保留） ③ （施工時間） ④ （余裕期間設定工事） ⑤ （鋼材の調達の遅れによる工期の延長） ⑥ （週休2日工事）	_____については、_____と関連するので相互の連絡を密にすること。 _____については、_____まで_____（ すること ・ しないこと ）。 _____本工事_____の施工時間は、 <u>9：00</u> ～ <u>17：00</u> とする。 本工事は、米子市余裕期間設定工事に係る実施要領（令和3年4月1日施行）の対象工事であり、工事開始日、前払金の請求、技術者の配置及びその他の取扱いについては、同要領の規定による。 工期については、調達公告のとおりとする。 この工事の工期には、鋼材調達期間として、_____か月を見込んでいるが、請負者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。 本工事は、米子市週休2日工事実施要領（土木工事）（令和3年4月1日施行）の対象工事である。本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い週休2日工事を実施すること。
用地関係	① （用地・物件等未処理）	本工事区間の_____には_____があるので、監督員と打合わせのうえ施工を行うこと。 なお、_____頃_____の予定である。
支障物件	① （埋設物等の事前調査） ② （支障物件） ③ （立木の置き場所）	工事にかかる地下埋設物等の事前調査については、[未調査・調査済み]である。 _____の施工に当って、_____が支障となっているが、_____までに移設が完了する見込みである。 予定どおり処理できなかった場合は別途協議する。 工事用地内の立木は伐採し、_____に置くこと。
公害対策	① （騒音振動対策）	「建設工事にともなう騒音振動対策技術指針」を順守すること。 本工事の施工に当っては、排出ガス対策型建設機械を使用すること。

現場説明書

特記事項2

安全対策	① (交通安全施設等)	一般交通等に支障を及ぼさないよう十分に注意して施工すること。 なお、交通整理の必要日数 <u>4</u> 日を見込んでいる。配置人員として、交通誘導員Aを合計 <u>2</u> 名(交代要員[有無])、交通誘導員Bを合計 <u>17</u> 名(交代要員[有無])を見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。 警備業法に規定する警備員を配置する場合においては、交通誘導員A、交通誘導員Bの定義は以下のとおりとする。 交通誘導員Aとは、警備業法第2条第4号に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員をいう。また、交通誘導員Bとは、警備業法第2条第3項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員A以外の交通の誘導に従事する者をいう。 なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第14条で規定する以外の者とし、安全教育、安全訓練等を十分行うこと。この場合は交通誘導員Bを配置しているとみなす。
排水濁水処理	① (濁水処理)	工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書によるものとする。 なお、これにより難しい場合は別途協議すること。
建設副産物の処理	【建設発生土(処理)】 ① (他工事等流用) ② (建設技術センター) ③ (民間残土受入地) ④ (土質改良プラント) 【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材(処理)】 ⑤ (分別解体等) ⑥ (他工事等流用)	建設発生土は _____ 市・町・村 _____ 地内の _____ 工事現場に運搬(片道運搬距離 _____ km) するものとする。 建設発生土は _____ 市・町・村 _____ 地内のセンター事業所に運搬(片道運搬距離 _____ km) するものとする。なお、処理費として、1 m³当たり円をセンターに支払うこと。 建設発生土は <u>米子</u> 市・町・村 <u>尾高</u> 地内の <u>(有)小倉興産</u> に運搬(片道運搬距離 <u>12.3</u> km) するものとする。なお、処理費として、1 m³当たり円を <u>1,700</u> に支払うこと。 建設発生土は _____ 市・町・村 _____ 地内の _____ に運搬(片道運搬距離 _____ km) するものとする。なお、処理費として1m³当り _____ 円を _____ に支払うこと。 コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。 なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。 コンクリート塊1m³当り _____ 円 アスファルト塊1m³当り _____ 円 建設発生木材1m³当り _____ 円 [Co 雑割材・ _____]は、 _____ 市・町・村 _____ 地内 _____ 工事現場に運搬(片道運搬距離 _____ km) するものとする。

現場説明書

特記事項3

建設副産物の処理	⑦（再資源化施設への搬出） （施設の名称・受入れ費用） （受入れ時間帯） （受入れ条件） ⑧（木材市場等へ売却） ⑨（最終処理等） ⑩（産業廃棄物の処理に係る税）	コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。 再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとにmanifestoを発行するものとする。 なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。 コンクリート塊 <u>米子市→町→村 夜見町</u> 地内の <u>（有）大成商事</u> （運搬距離 <u>6.2</u> km）、費用 1t 当り <u>1,200</u> 円 アスファルト塊 <u>米子市→町→村 和田町</u> 地内の <u>カネックス㈱</u> （運搬距離 <u>11.8</u> km）、費用 1t 当り <u>1,300</u> 円 建設発生木材 <u>市・町・村</u> 地内の <u> </u> （運搬距離 <u> </u> km）、費用 1t 当り <u> </u> 円 その他（ <u> </u> ） <u>市・町・村</u> 地内の <u> </u> （運搬距離 <u> </u> km）、費用 1t 当り <u> </u> 円 8時～17時（平日） ア 路盤材、土砂、金属片等が、混入していないこと。 イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。 ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径 <u> </u> cm 以下、長さ <u> </u> m 以下であること。 エ 2次公害発生の恐れがある物質（廃油等）を含まないこと。 建設発生木材は <u>市・町・村</u> 地内の <u> </u> への搬出（片道運搬距離 <u> </u> km）を想定し、<u> </u> 円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合は理由を付して協議すること。 <u> </u> については、<u>市・町・村</u> 地内の産業廃棄物処理場への搬出（片道運搬距離 <u> </u> km）を想定し、その費用として1t 当たり <u> </u> 円を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。 産業廃棄物処理業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとにmanifestoを発行するものとする。 産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を <u> </u> 円見込んでいる。
建設副産物の使用	①（建設発生土の使用） ②（再生資材の使用）	<u> </u> 工事から〔当該工事運搬・相手方運搬〕の建設発生土を受入れ、使用箇所：<u> </u> に使用する。 1) C 〇雑割材は、<u> </u> 工事から運搬し、使用箇所：<u> </u> に使用する。 2) アスファルト・コンクリート切削殻は、<u> </u> 工事から運搬し、使用箇所：<u> </u> に使用する。 3) ・再生クラッシャーラン〔規格：<u> </u>〕は、使用箇所：<u> </u> に使用する。 ・再生コンクリート砂〔規格：RS－<u> </u>〕は、使用箇所：<u> </u> に使用する。 4) 再生加熱アスファルト混合物〔規格：<u> </u>〕は、使用箇所：<u> </u> に使用する。 5) その他再生資材〔資材名：<u> </u>〕〔規格：<u> </u>〕は、使用箇所：<u> </u> に使用する。

現場説明書

特記事項 4

工事用道路	①（農地の一時転用について）	本工事を施工するために必要な仮設道路等を農地に設置する目的で、受注者が農地を借地する場合は、事前に所轄農業委員会と協議を行い、農地法第5条第1項に基づく農地一時転用の許可を得ること。
	②（農地の賃貸借）	ア _____の用途に使用するため、_____市・町・村_____番地を賃貸借すること。 イ 土地賃貸借契約書に「米子市との建設工事請負契約に基づき、土地の貸借権は米子市が有することとし、原状復旧の責は米子市が負い、受注者がその任に当たるものとする。」を明記すること。 ウ 賃貸人に賃貸借料を支払うこと。 エ 工事完了後、速やかに農地の原状に復旧すること。 オ イにより契約した地番における、農地一時転用許可は不要である。
その他	①（労災補償に必要な保険の付保）	本工事において、請負者は労災補償に必要な任意の保険契約を締結すること。なお、この労災補償に必要な保険契約の保険料を予定価格に反映している。
	②（現場環境改善）	本工事は、現場環境改善（率計上分）実施対象工事と〔する （もな） 〕。 下表の内容のうち原則として各費目（仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携）ごとに1実施内容ずつ（いずれか1項目のみ2実施内容）の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。 実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。 地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容（目的に資するものであること）について監督員の確認を受けること。 1 内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。

計上費目	実施内容
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備、 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設、 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実、 6. 環境負荷の低減
営繕関係	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 労働者宿舍の快適化 3. デザインボックス（交通誘警備員待機室） 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2. 盗難防止対策（警報機等） 3. 避暑（熱中症予防）・防寒対策
地域連携	1. 完成予想図、 2. 工法説明図、 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 5. 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6. 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等（地域行事等の経費を含む） 9. 社会貢献
防災・危機管理関係（港湾・漁港事業）	1. 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）

現場説明書

特記事項 5

その他	③（電子納品） ④（情報共有システム） ⑤（熱中症対策）	本工事は電子納品対象工事とすることができる。 電子納品に当たっては、https://www.pref.tottori.lg.jp/171188.htmに掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という）に従い適正に納品すること。 ただし、電子納品を行う場合は、実施前に監督員と協議を行うこと。 本工事は情報共有システム対象工事とすることができる。 情報共有システム利用に当たっては、ガイドラインに従い適正に実施すること。 ただし、情報共有システム利用を行う場合は、実施前に監督員と協議を行うこと。 熱中症対策について https://www.pref.tottori.lg.jp/291941.htm に掲載の熱中症予防対策資料を参考に熱中症予防対策を実施すること。また、気象庁から高温注意報（最高気温35℃以上が予想される場合）が発表された日においては、作業の中断、作業時間の短縮を行うか、十分な水分、塩分の摂取のほか休憩場所の整備及び十分な休憩時間を確保するなどの熱中症予防対策を確実に実施したうえで作業を行うこと。
------------	---	--

※明示する項目を_____部分に記入又は追記し、不要部分は——で削除して使用すること。

建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等(土木工事等)

分別解体等の計画等

工作物の構造 (解体工事のみ)		☐ 鉄筋コンクリート造 ☐ その他()			
工事の種類		☐ 新築工事 ☒ 維持・修繕工事 ☐ 解体工事 ☐ 電気 ☐ 水道 ☐ ガス ☒ 下水道 ☐ 鉄道 ☐ 電話 ☐ その他()			
使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ)		☒ コンクリート ☐ コンクリート及び鉄から成る建設資材 ☒ アスファルト・コンクリート ☐ 木材			
工作物に 関する調査 の結果	工作物の状況	築年数 年 その他()			
	周辺状況	周辺にある施設 ☒ 住宅 ☐ 商業施設 ☐ 学校 ☐ 病院 ☐ その他() 敷地境界との最短距離 約 1.0 m その他()			
工作物に 関する調査 の結果及 び工事着 手前に実 施する措 置の 内容	工作物に関する調査の結果		工事着手前に実施する措置の内容		
	作業場所		作業場所 ☒ 十分 ☐ 不十分 その他()		
	搬出経路		障害物 ☐ 有() ☒ 無 前面道路の幅員 約 4.0～7.0 m 通学路 ☐ 有 ☒ 無 その他()		
	特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ)		☐ 有 () ☒ 無		
	他法令関係 (解体・維持・ 修繕工事の み)	石綿 (大気汚染防止 法・安全衛生法 石綿則)	☐ 有 特定建設資材への付着(☐ 有 ☐ 無) ☒ 無		
	その他				
工程 ごとの 作業 内容 及 び 解 体 方 法	工程		作業内容	分別解体等の方法 (解体工事のみ)	
	①仮設		仮設工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	②土工		土工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	③基礎		基礎工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	④本体構造		本体構造の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	⑤本体付属品		本体付属品の工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
	⑥その他 ()		その他の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
工事の工程の順序 (解体工事のみ)		☐ 上の工程における⑤→④→③の順序 ☐ その他() その他の場合の理由()			
工作物に用いられた建設資材の量 の見込み(解体工事のみ)		トン			
廃 棄 物 発 生 見 込 量	特定建設資材廃棄物の種類ごとの量の見込み (全工事)並びに特定建設資材が使用される工 作物の部分(新築・維持・修繕工事のみ)及び特 定建設資材廃棄物の発生が見込まれる工作物 の部分(維持・修繕・解体工事のみ)		種類	量の見込み	使用する部分又は発生が見込ま れる部分(注)
			☒ コンクリート塊	0.4トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☒ ⑥
			☒ アスファルト・コンクリート塊	0.9トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☒ ⑥
			☐ 建設発生木材	トン	☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☐ ⑥
			(注) ①仮設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他		
備考					

□欄には、該当箇所に「レ」を付すこと。

総括情報表

頁0-0001

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系 ファイル名	55 米子市（下水道） 設計書 当初 07-*****-00002-10 0 1 実施単価 30 米子市 00-07.05.15(0) 1 公共				
	当 世 代	前 世 代		当 世 代	前 世 代
工種 現場環境改善費 施工地域 緊急工事 契約保証区分 豪雪割増 工期算定区分 冬期補正係数 週休二日補正係数	46 下水道（ 2 ） 01 率計上する（ 地方部 ） 12 一般交通影響有り(1) 00 通常工事 0 % 01 金銭保証（ 0 . 0 4 % ） 01 豪雪割増あり 02 算出しない 00 0 級地 0 . 0 % 13 完全週休 2 日				

本工事費 内訳書

頁0-0002

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費										X1000	
管路施設										Y1999	(レ^\ Ⅱ1)
マンホール蓋取替工										Y2999	(レ^\ Ⅱ2)
マンホール蓋取替工										Y3999	(レ^\ Ⅲ3)
	マンホール蓋取替工 円形カッター工法									G0001	
		12		箇所							科目内訳0001号表
構造物撤去工										Y2999	(レ^\ Ⅱ2)
運搬処理工										Y3999	(レ^\ Ⅲ3)
	殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離8.0km以下(5.7km超)									SPK24040151 00 A=1,B=1,C=2,D=34,E=1	
		0.2		m3							単第0 -0013 表 070515
	殻運搬 舗装版破砕 DID区間有り 運搬距離15.0km以下(11.0km超)									SPK24040151 00 A=3,B=4,C=2,D=51,E=1	
		0.4		m3							単第0 -0014 表 070515

本工事費 内訳書

頁0-0003

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
投棄料						#0041 C=投棄料
			一式			
Co殻処分費 無筋、有筋						TTV0439 00
(有)大成商事	0.4	t				070515
As殻処分費						TTV0440 00
						070515
カネックス(株)	0.9	t				
発生土運搬						Y3999 (レバ Ⅱ3)
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間有り 距離15.0km以下(11.0km超)						SPK24040002 00 A=2,B=6,C=1,D=2,F=48
	0.2	m3				単第0 -0015 表 070515
投棄料						#0041 C=投棄料
			一式			
建設残土処分料 地山						TTV0060 00
(有)小倉興産	0.2	m 3				070515
仮設工						Y2999 (レバ Ⅱ2)
交通管理工						Y3999 (レバ Ⅱ3)

本工事費 内訳書

頁0-0004

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
交通誘導警備員 A						R0368 00
	2		人			070515 1
交通誘導警備員 B						R0369 00
	17		人			070515 1
* * 直接工事費 * *						
現場環境改善費						Z0012
共通仮設費						
* * 共通仮設費計 * *						
* * 純工事費 * *						
現場管理費						
* * 工事原価 * *						

本工事費 内訳書

頁0-0005

費目・工種・施工名称など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般管理費率分							
契約保証費							
一般管理費計							
** 工事価格 **							
** 消費税相当額 **							
** 工事費計 **							

マンホール蓋取替工

G0001

科目内訳表

科目内訳0001号表

頁0-0006

円形カッター工法

12 箇所 当り

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
準備工					V010001 00
	12	箇所			単第0 -0001 表
切断工					V010002 00
	12	箇所			単第0 -0004 表
撤去工					V010003 00
	12	箇所			単第0 -0005 表
鉄蓋設置工					V010004 00
	12	箇所			単第0 -0007 表
復旧工					V010005 00
	12	箇所			単第0 -0010 表
材料費 鉄蓋設置工・復旧工分					V010006 00
	1	一式			単第0 -0011 表
*** 合計 ***					
	12	箇所			
*** 単位当たり ***					
	1	箇所			

準備工

V010001

施 工 単 価 表

単第0 -0001 表

頁0-0007

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.01	人			RTPC00009
特殊作業員	0.01	人			RTPC00001
普通作業員	0.03	人			RTPC00002
ダンプトラック 2 t	0.01	日			V01M001 単第0-0002 表
トラック（クレーン装置付） 2 t車、2 . 9 t吊り	0.01	日			V01M002 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

施 工 単 価 表

V01M001

単第0 -0002 表

ダンプトラック
2 t

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽油 小型ローリー（パトロール給油）	16.20	L			TTPC00013 1
油脂類	20.00	%			#01 燃料費の20%
ダンプトラック オンロード・ディーゼル 2t積級	1.17	供用日			TM010031 建設機械等損料算定表p146
*** 単位当たり ***	1	日			

施 工 単 価 表

V01M002

単第0 -0003 表

トラック（クレーン装置付）
2 t車、2 . 9 t吊り

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック賃料（クレーン装置付） 2 t、2 . 9 t吊り 補正率1.02	1	台・日			TM010001
特殊運転手	1.00	人			建設物価p802 RTPC00006
*** 単位当たり ***	1	日			

切断工

V010002

施工単価表

単第0 -0004 表

頁0-0010

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.03	人			RTPC00009
特殊作業員	0.03	人			RTPC00001
普通作業員	0.09	人			RTPC00002
円形カッター損料 φ 1 0 5 0 / φ 1 2 8 0 / φ 1 5 7 0 切断用	0.33	日			TM010006 見積り
ブレード損料 φ 1 0 5 0、1 5 インチ 舗装厚 1 5 0 mm	1	箇所			TM010013 見積り
ダンプトラック 2 t	0.03	日			V01M001 単第0-0002 表
トラック（クレーン装置付） 2 t 車、2 . 9 t 吊り	0.03	日			V01M002 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

撤去工

V010003

施 工 単 価 表

単第0 -0005 表

頁0-0011

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.07	人			RTPC00009
特殊作業員	0.07	人			RTPC00001
普通作業員	0.22	人			RTPC00002
空気圧縮機	0.33	日			V01M003 単第0-0006 表
ダンプトラック 2 t	0.07	日			V01M001 単第0-0002 表
トラック（クレーン装置付） 2 t車、2 . 9 t吊り	0.07	日			V01M002 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

空気圧縮機

V01M003

施工単価表

単第0 -0006 表

頁0-0012

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽油 小型ローリー（パトロール給油）	1.20	L			TTPC00013 1
油脂類	20.00	%			#01 燃料費の20%
空気圧縮機賃料 吐出量 3 . 5 ~ 3 . 7 m 3 / m i n 補正率1.02	1	基・日			TM010002 建設物価p805
さく岩機 コンクリートブレーカ 20kg級	1	供用日			TM010032 建設機械等損料算定表p426
ノミ損耗費	1.00	箇所			TM010003 見積り
*** 単位当たり ***	1	日			

施工単価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.11	人			RTPC00009
特殊作業員	0.11	人			RTPC00001
普通作業員	0.34	人			RTPC00002
発動発電機	0.33	日			V01M004 単第0-0008 表
ハンマードリル	0.33	日			V01M005 単第0-0009 表
ビット損料 ビット径φ 2 5	1	箇所			TM010005 見積り
ダンプトラック 2 t	0.11	日			V01M001 単第0-0002 表
トラック（クレーン装置付） 2 t車、2 . 9 t吊り	0.11	日			V01M002 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

発動発電機

V01M004

施 工 単 価 表

単第0 -0008 表

頁0-0014

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.70	L			TTPC00014 1
油脂類	20.00	%			#01 燃料費の20%
発動発電機 ガソリンエンジン駆動 定格容量2kVA	1.00	日			M2742 建設機械等損料算定表 p 370
*** 単位当たり ***	1	日			

ハンマードリル

V01M005

施工単価表

単第0 -0009 表

頁0-0015

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ハンマードリル 電動ドリルφ25 φ10～20を代用	1	日			TM010033 建設機械等損料算定表p426
*** 単位当たり ***	1	日			

復旧工

V010005

施 工 単 価 表

単第0 -0010 表

頁0-0016

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.08	人			RTPC00009
特殊作業員	0.08	人			RTPC00001
普通作業員	0.25	人			RTPC00002
ダンプトラック 2 t	0.08	日			V01M001 単第0-0002 表
トラック（クレーン装置付） 2 t車、2 . 9 t吊り	0.08	日			V01M002 単第0-0003 表
*** 単位当たり ***	1	箇所			

施 工 単 価 表

V010006

単第0 -0011 表

1 式 当り

材料費
鉄蓋設置工・復旧工分

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
次世代型鋳鉄製マンホール鉄蓋 T - 2 5 φ 6 0 0	6	組			TZMH0003 見積り
鋳鉄製マンホール鉄蓋 T - 1 4 φ 6 0 0	6	組			TZMH0004 見積り
無収縮モルタル 25kg/袋	48	袋			TZ010001 見積り
補強用鉄筋 φ 6 0 0 - φ 1 0 5 0 用	12	個			TZ010005 見積り
緊結ボルト他	12	組			TZ010007 見積り
型枠損料	12	回			V01M007 単第0-0012 表
常温合材 20kg/袋	36	袋			TZ010002 見積り
*** 単位当たり ***	1	一式			

型枠損料

V01M007

施 工 単 価 表

単第0 -0012 表

頁0-0018

1 回 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
内型枠損料 内シールフォームのみ	1.0	箇所			TM010026 見積り
ペール缶損料 20 L	1.0	箇所			TM010027 見積り
簡易計量カップ損料 5 L	1.0	箇所			TM010028 見積り
ハンドミキサー損料（円盤式） ステンレス製	1.0	箇所			TM010029 見積り
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

頁0-0019

殻運搬

SPK24040151

単第0 -0013 表

Co(無筋)構造物とりこわし

DID区間有り 運搬距離8.0km以下(5.7km超)

1

m3 当り

機械構成比： 41.69%

労務構成比：

43.88%

材料構成比： 14.43%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	41.69%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
一般運転手	43.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	14.43%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=34 運搬距離8.0km以下(5.7km超)		

施工単価表

頁0-0020

殻運搬

舗装版破碎

機械構成比： 18.57% 労務構成比： 72.35%

SPK24040151

DID区間有り 運搬距離15.0km以下(11.0km超)

材料構成比： 9.08% 市場単価構成比： 0.00%

単第0 -0014 表

1

m3 当り

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	18.57%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
一般運転手	72.35%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	9.08%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=51 運搬距離15.0km以下(11.0km超)		

施工単価表

頁0-0021

土砂等運搬

SPK24040002

単第0 -0015 表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間有り 距離15.0km以下(11.0km超)

1

m3 当り

機械構成比: 18.57% 労務構成比:

72.35%

材料構成比: 9.08%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単価(積算地区)	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	18.57%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
一般運転手	72.35%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	9.08%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=48 距離15.0km以下(11.0km超)			B=6 バックホウ山積0.13m3(平積0.1m3) D=2 DID区間有り		